

今週の為替相場見通し(2023年5月29日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		137.50 ~ 140.73	140.61	137.00 ~ 142.50
ユーロ	(ドル)		1.0702 ~ 1.0831	1.0727	1.0500 ~ 1.0800
(1ユーロ=)	(円)		148.86 ~ 150.91	150.78	148.00 ~ 155.00
英ポンド	(ドル)		1.2308 ~ 1.2471	1.2351	1.2300 ~ 1.2600
(1英ポンド=)	(円)	*	171.20 ~ 173.74	173.57	169.70 ~ 176.40
豪ドル	(ドル)		0.6490 ~ 0.6667	0.6518	0.6400 ~ 0.6600
(1豪ドル=)	(円)	*	90.76 ~ 92.35	91.65	91.00 ~ 93.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 小林 元子

(1)今週の予想レンジ: 137.00 ~ 142.50 円

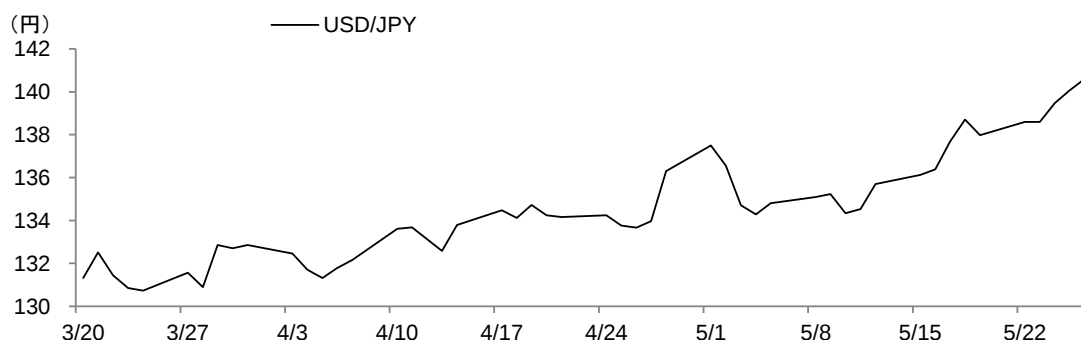
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、日米金利差の拡大とともに半年ぶりに140円台に乗せた。週初22日、137.72円でオープンしたドル/円は、米金利低下を受け下落するも、堅調な日本株を背景に下に往って来い。海外時間は、ブラード・セントルイス連銀総裁があと2回の利上げを支持する旨の発言を行うと、米金利上昇に合わせ138円台半ばに上昇した。23日、ドル/円は材料に欠ける中、138円台半ばから後半でレンジ推移。海外時間は、FRB高官のタカ派な発言や米債務上限問題に関する報道、堅調な米経済指標などを背景に米金利は上下、ドル/円も138円台半ばを中心に値幅を伴いつつレンジ推移した。24日、ドル/円は日本株が軟調推移する中、138円台前半にじり安推移。海外時間は、英4月消費者物価指数(CPI)の強い結果やウォーラーFRB理事による利上げ継続を示唆する発言を受け、米金利は騰勢を強め年初来高値を更新し、139円台半ばをつけた。25日、ドル/円は米大手格付機関が米国債格付けの引き下げを示唆したことが材料視され、138円台後半に急落も、その後は断続的に前日の高値を更新し、139円台後半に続伸。海外時間は、米1~3月期GDP(改定値)や新規失業保険申請件数の強い結果に米金利は続伸、一時140.23円まで上値を伸ばした。週末26日、ロンドン時間に一時139.50円まで値を下げる場面がみられるも、NY時間にて発表された米経済指標の強い結果や、米債務上限の協議に進展があったとの内容を受けてドル買いが進み、ドル/円は140.73円まで年初来高値を更新、140.61円越週した。

今週のドル/円は堅調推移を予想する。先週金曜日にマッカーシー下院議長が、債務上限問題について、協議に進展があったとの発言や、堅調な米経済指標の内容を受けて、ドル/円は140.73円まで高値を更新した。米債務上限について、27日夜に米連邦政府の法廷債務上限を実質的に引き上げ、米国のデフォルトを回避することで原則合意に達し、採決は31日(水)に行われる予定となっている。市場に安堵感が広がり、また、直近発表の米経済指標では力強さも確認されており、6月のFOMCにおける追加利上げへの期待が再燃。高値圏での利益確定売りへの警戒感があるものの、ドル高基調の継続となろう。重要指標の発表は30日(火)に米5月コンファレンスボード消費者信頼感、31日(水)に米4月JOLT求人、6月1日(木)に米5月ADP雇用統計、米5月製造業PMI、2日(金)に米5月雇用統計などの発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(5/22~5/26)の値動き: 安値 137.50 円 高値 140.73 円 終値 140.61 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 1.0500 ~ 1.0800 148.00 ~ 155.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場はドル高に押されて続落。週初22日、1.0823でオープンしたユーロ/ドルは新規材料に欠ける中、1.08台前半を主としたレンジ推移。翌23日、ユーロ圏5月製造業PMI(速報)の冴えない結果を背景にユーロ/ドルは1.07台後半に下落した。24日、ユーロ/ドルは米金利低下を受け1.08台を回復する場面もあったが、独5月IFO企業景況感指数の軟調な結果やFRB高官のタカ派な発言を背景に米独金利差は拡大、1.07台半ばに続落した。25日、ユーロ/ドルは独1~3月期GDP(確報)が予想に反しマイナス成長となったことに加え、堅調な米経済指標も合わせ米独金利差は拡大、一時2か月ぶりの安値となる1.0708まで下押した。26日、東京時間は引き続き1.07台前半から半ばでの動意に乏しい推移。債務上限問題の進展を示すヘッドライン等を受けてドル買いが優勢となる中で週安値の1.0702まで下落するも、一巡後は1.0720近辺での揉みあいとなり同水準で越週となった。

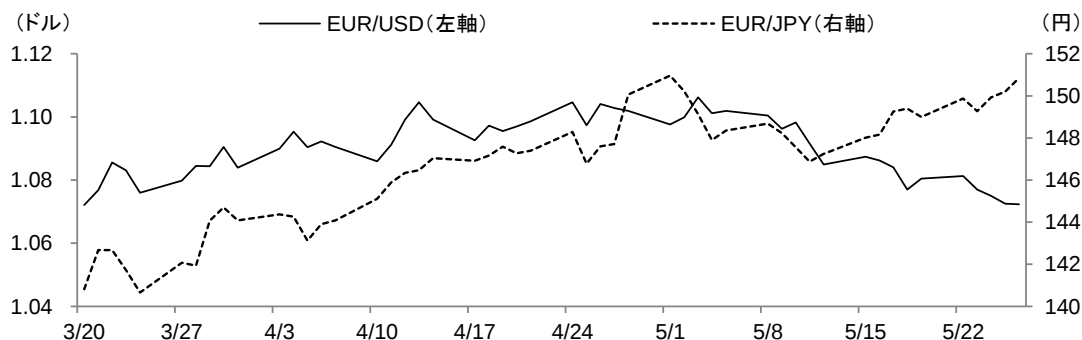
今週のユーロ/ドル相場は上値の重い展開を予想する。市場の最大の関心事である米債務上限問題に関してはホワイトハウスと共和党代表者の協議にて合意に至り、デフォルト回避に向けて大きく前進した。上下両院での可決という不確定要素は残るも、市場では一旦は安心感が高まりやすい状況になるのではないかと。FED要人の相次ぐタカ派発言等を受けて、6月FOMCでの利上げ期待が高まっている状況。以上を踏まえると、基本的にはユーロ/ドルはドル高優勢の地合いとなる中で上値の重い展開になるのではないかと。また、今週は1日(木)にユーロ圏5月消費者物価指数(HICP、速報)が公表予定となっている。前月はコアベース+5.6%と過去最高水準圏の数値となっている状況。ECBの政策運営を占う上でも同指標の結果への注目度は高そうだ。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/22~5/26)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0702 高値 1.0831 終値 1.0727

(対円) 安値 148.86 高値 150.91 終値 150.78



(資料)ブルームバーグ

3. 英ポンド

欧州資金部 中島 将行

(1) 今週の予想レンジ: 1.2300 ~ 1.2600 169.70 ~ 176.40 円

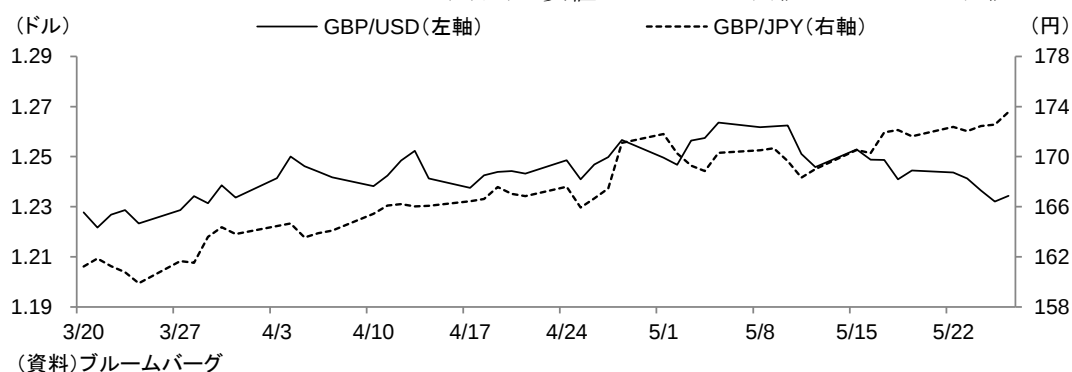
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週1週間の英ポンド相場は対ドルで続落。引き続き米金利上昇・ドル高に押される形となった。もっとも、英4月CPIの上振れを受けてイングランド銀行の利上げ織り込みが一段と拡大しておりポンドは他のG10通貨と比較して底堅く推移している。特に、対円ではドル/円相場が2022年11月以来となる140円台を突破して円安・ドル高が進んだことを受けて、ポンド/円も先週末の171.63円6から173.56円へと値を切り上げた。週明け22日は米セントルイス連銀のブラード総裁やミネアポリス連銀のカシュカリ総裁らの追加利上げを示唆する発言を受けて、グローバルにドル高となった。翌23日は米債務上限問題を巡る不透明感を背景に為替相場は小動きとなった。24日には後述するように英4月CPIが市場予想を大きく上回ったことを受け、一時的に英ポンドがドルに対して上昇する場面があったものの、間もなく反落し、CPI発表前を下回る水準へと下落した。25日には米新規失業保険件数が市場予想を下回り堅調な雇用環境が改めて示されたことを受けて米金利上昇・ドル高が一段と進んだ。26日には英4月小売売上高(自動車・燃料を除く)が前月比+0.8%と市場予想(同+0.4%)を上回ったことを受けてロンドン時間の午前中にポンドが反発。悪天候の影響で消費が落ち込んだ3月分の結果が一段と下方修正(前月比▲1.0%→同▲1.4%)されたものの、3か月平均で見ても英国の個人消費は上向いている。もっとも、同日に発表された米4月個人消費支出も市場予想を上回り、取引終盤にはポンドは上値を抑えられる形となった。先週発表された英国の経済統計で最も市場の注目を集めた英4月CPIだが、結果は前年同月比+8.7%と市場予想の同+8.2%を大きく上回り、ギルツ(英国債)の利回りが急騰、グローバルに金利上昇が波及した。3月分の同+10.1%からは伸びが鈍化したものの、内訳の寄与度を見ると、ロシアのウクライナ侵攻に伴う2022年4月のエネルギー価格の急騰の影響が前年比で見たCPIの計算上、剥落したことでほぼ説明ができる。一方、サービス価格の伸び加速(前年同月比+6.6%→同+6.9%)、食料インフレの高止まり(同+19.1→同+19.0%)のほか、中古車をはじめ一部のコア財の価格は伸びが加速しており、全体的にインフレの下方硬直性を強烈に印象づける結果となった。

今週1週間のポンド相場は対ドルでの上値の重い展開を見込むが、円をはじめとする他通貨に対しては底堅く推移すると予想する。6月5日(月)にも期限を迎える米債務上限問題を巡るヘッドラインを意識しながらの展開となろうが、為替市場で米金利上昇・ドル高が進む根底の要因は、米景気・雇用環境の底堅さ、そこから来るインフレの下方硬直性から、FRBの6月FOMCでの追加利上げの可能性が市場で意識されていることにあると見ています。6月2日(金)公表の米5月雇用統計の結果次第では現在70%程度の6月会合での+25bpの追加利上げの織り込みが一段と進む可能性がある。一方、英国でも英4月CPIの上振れを受けて市場が織り込むイングランド銀行のターミナル・レート(政策金利の到達点)が5月26日時点で5.48%と1週間前の4.89%から大幅に上方シフトしている。英4月CPI発表後、英国のみならず大陸欧州でも株式相場が下落しポンドの上昇が続かなかったことを踏まえ、一段の金利上昇が景気にとって重荷となることへの懸念が強まっているという見方もある。もっとも、その後発表された英4月小売売上高は堅調な結果であり、イングランド銀行の追加利上げ観測は素直にポンド相場のサポート要因になると見ている。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(5/22~5/26)の値動き: (対ドル) 安値 1.2308 高値 1.2471 終値 1.2351
(対円) 安値 171.20 高値 173.74 終値 173.57



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 松木 悠馬

(1) 今週の予想レンジ: 0.6400 ~ 0.6600 91.00 ~ 93.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

週初22日は0.6659でオープン。特段ヘッドラインがない中でレンジ推移。NY時間にはブラード・セントルイス連銀総裁のタカ派発言や米社債の発行を背景に米金利とともに下落する場面もみられたが、米債務上限問題を前に様子見展開となり0.66台半ばでクローズ。23日はバイデン大統領とマッカーシー下院議長による協議で妥結に至らなかったこともありリスク資産の軟調推移につれ安となり0.66ちょうど付近まで下落した。24日はRBNZ会合で+25bp利上げが実施されたものの、今後の会合において引き締めが必要ないとの見方が強まった為、ニュージーランドドルの下落に豪ドルもつれ安となり0.65台後半まで下落。その後も米株が続落する展開を横目に豪ドルも0.65台前半まで下落した。25日は0.65台半ばでオープンするとオアRBNZ総裁のハト派発言にニュージーランドドルが下落すると豪ドルも連れ安となった。また米経済指標が軒並み市場予想を上回ったことを受けた米金利の上昇にドル買いが強まると豪ドルは0.65台割れまで下値を拡大した。26日、豪ドルは0.65ちょうど付近でオープンすると、米国の3連休を控えたポジション調整に0.6540付近まで上昇。ただ、その後米4月PCEコアデフレーターが市場予想を上回ったことを受けた利上げ観測の高まりやマッカーシー下院議長の米債務上限問題を巡りポジティブな発言もドル買いを加速させると0.65台割れまで下落。その後は堅調な米株式等に豪ドルも値を戻し0.6518で越週した。

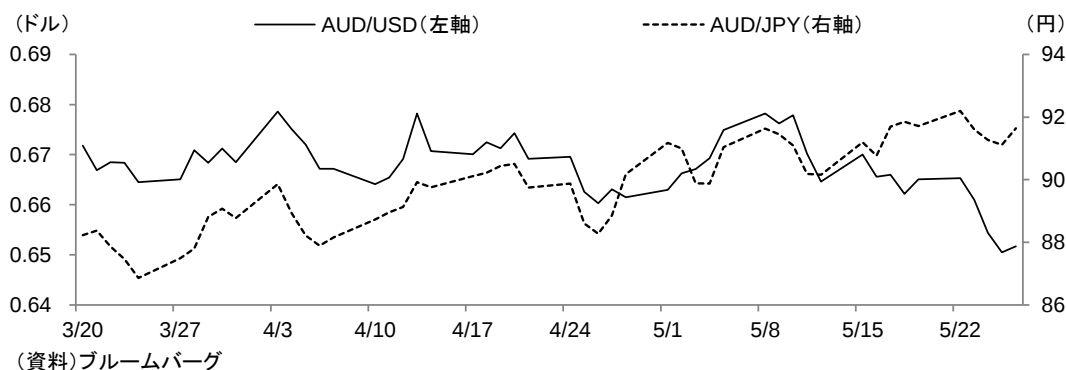
今週の豪ドルは経済指標の結果に左右されるだろうが、米利上げ観測の高まりや中国の景気減速懸念を背景に軟調推移を基本線としたい。先週は強い米経済指標やFED高官のタカ派発言を背景に米金利とともにドル買いが進行した。今週は週後半にかけ米5月ISM製造業景況指数や米5月雇用統計など重要な指標の発表が相次ぐ。結果次第では次回FOMCでの利上げ織込みの進行とともにドル買い圧力が高まり豪ドルには下押し材料となるだろう。加えて、中国5月PMIの発表を控えており、新型コロナウイルスの再拡大等に伴い中国の景気加速懸念が後退している足許の状況では結果次第で豪ドルに一段とネガティブ材料となると予想する。次週にRBAを控え週央には豪4月CPIの発表が予定されている。先に発表された豪4月雇用統計の市場予想を下回る結果を受け次回RBAでの利上げ停止観測が高まった状況。ただ、豪4月CPIにてコンセンサスに反して根強いインフレが確認され次回RBAの利上げ観測の高まる場合や米債務上限問題の解決を受けたリスクセンチメントが改善する場合の豪ドルの上昇には警戒したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/22~5/26)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6490 高値 0.6667 終値 0.6518

(対円) 安値 90.76 高値 92.35 終値 91.65



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。